

2024年度は、嬉しい驚きとともに幕開けしました。「インドクラス」（インドの文化、環境、テクノロジー）の受講登録者が300名を超えました。インド大科学大学大学院ベンガルール校（IISc Bengaluru）と共同で、第2回科学技術イノベーションフォーラムを慶應義塾大学で開催し、盛況のうちに幕を閉じました。インドの多くの高等教育機関との連携を通じ、インド国内の教育関係者や学生との交流を深め、インドの東西南北と広がっています。日印研究ラボ（India Japan Laboratory:IJL）は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）さくらサイエンスプログラムに採択され、3名のインド人学生を共同研究のために招へい予定です。1年間を通して一貫したサポートをいただいた産業界の皆様へ深く感謝申し上げます。2024年度の活動報告書は、皆様のご厚意により、より充実したものとなりました。

## レクチャーと授業@ 湘南藤沢キャンパス（SFC）

IJLは、インドと日本間の学術交流を強化するために、インド政府関連機関より1名、2大学から1名ずつ、教育者を招待しました。

### ● 2024年春学期

#### 「インドクラス」5年目

IJLでは、春学期に「インドの文化・環境・テクノロジー」をテーマにした「インドクラス」を開講しています。2024年春学期（4月～7月）のオンライン授業は5年目を迎え、慶應義塾大学各キャンパスから309名の学生が「インドクラス」に登録し、5年目と比較して70%以上の増加を記録しました。

楽天によるイノベーションに関する2つのセッションと、慶應義塾大学の学生ファシリテーターによる特別質疑応答セッションは大変好評でした。パデコ寄附講座では開発がテーマです。企業パートナーの皆様、そしてインドと日本の産学官、そして両国の政府関係者の皆様へ深く感謝申し上げます。

### ● 2024年秋学期

- ① インド社会科学研究評議会（ICSSR）：リチャ・シャルマ博士
- ② バッテール・カレッジ（西ベンガル州ダンタン）：ウダイ・チャテルジー助教授
- ③ ヴィシュワ・バーラティ（西ベンガル州シャンティニケタン）：モウスミ・バタチャリヤ助教授



### 開発講義



開発コンサルタントの宮原光（ひかり）氏（SFC卒）より、パデコでの仕事を通して、開発の展望についてご講演をしてくださいました（2024年5月）。

### 博士・修士課程学生向け教育



2025年3月10日：南アジア災害研究機関連合（SAADRI）、日印研究ラボ、Inspire インドネシアが、博士・修士課程の学生向けクリティカルライティングワークショップを開催しました。

### イノベーション講義



楽天インド法人副会長の白石翼氏と楽天チームは、楽天とイノベーションをテーマに、インドクラスで90分間2コマ（2週分）の特別セッションでご講演をしてくださいました（2024年5月）。

## 西ベンガル州における日印研究ラボの活動報告書

これは、2024年7月に西ベンガル州で実施された活動に関する報告書です。訪問の主な目的は、地域の状況、地形、および政治経済の特有の課題を考慮しながら、防災コミュニケーションを通じて防災意識を広めることです。報告書は以下のリンクからダウンロードできます。

<https://indiajapanlab.org/wpl/wp-content/uploads/2024/08/Journalism-and-Risk-communication-Report.pdf>

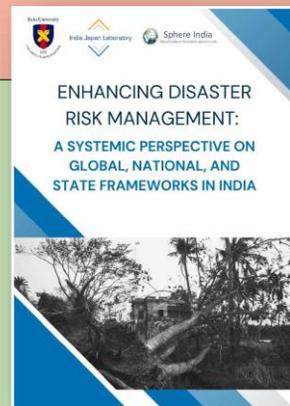


## 災害リスク管理の強化：インドにおける世界、国家、州の枠組みに関する体系的視点

オリッサ州とアーンドラ・プラデーシュ州におけるシステムリスク管理について、統合災害レジリエンス・フレームワークとシステムリスク能力評価手法を用いて詳細に分析。重要なインフラと相互接続されたシステム全体のレジリエンスを強化するためのシステムアプローチに重点を置いています。

報告書は以下のリンクからダウンロードできます。

<https://indiajapanlab.org/wpl/wp-content/uploads/2024/09/18.-Systemic-Risk-India.pdf>

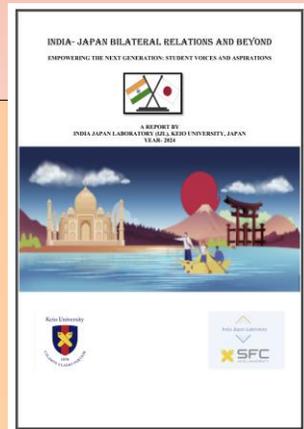


## 日印二国間関係と将来について：次世代の探究：学生たちと彼らが目指すもの

慶応義塾大学日印研究ラボが企画する授業である「インドの文化・環境・テクノロジー」を受講した学生による日印二国間関係に関する考察をまとめた報告書。2023年春学期に同授業を受講した約200名の学生が、授業を通して最も印象に残った点についてレポートを提出。レポートの分析から、日印二国間関係をさらに深めたいという学生の強い思いが明確になりました。

報告書は以下のリンクからダウンロードできます。

<https://indiajapanlab.org/wpl/wp-content/uploads/2024/09/19.-India-Class-2024.pdf>



## 第2回日印科学技術イノベーションフォーラム（2024年）開催報告：インクルーシブな発展に向けて @慶応義塾大学

インドのインド理工科大学ベンガルール校と慶応義塾大学インド日本研究所の共催で開催された日印STI学術セミナーおよび日印STIフォーラムの報告書です。学界、産業界、政策立案者から積極的な参加がありました。慶応義塾大学の学生も参加し、日印関係について学びました。

報告書は以下のリンクからダウンロードできます。

<https://indiajapanlab.org/wpl/wp-content/uploads/2025/01/IJL-STI-SESSION-REPORT-2024.pdf>



# 第二回日印科学技術フォーラム（於：慶應義塾大学） テーマ：包括的な開発に向けて



学術セミナー

2024年12月4～5日

於：湘南藤沢キャンパス



学術セミナーで発表者とともに記念写真@sfc



## 日印科学技術イノベーションフォーラム

2024年12月6日 於：三田キャンパス

在日インド大使シビ・ジョージ閣下、ご来賓の方々、伊藤学長、土屋理事、ご支援をいただいた企業ご関係者の方々と主催者



The Core Team for STI Forum

- ショウ教授のグローバル・レジリエンス・イノベーション・ラボ（GRIL）全員が、3日間のイベントの運営を手伝ってくれました。
- 第2回日印科学技術イノベーションフォーラムで発表された41件の学術論文は2冊にまとめられ、インド科学研究所ベンガルールと共同で2025年に出版される予定です。
- インド科学大学院大学(IISc): アンジュラ・グルトゥー教授、博士課程学生のミンヌ・マリエッカルさん、社会政策研究所よりヴィーナ・グルラジャさん
- 慶応義塾大学IJL: ショウ教授、川根上席所員、博士課程在籍のディヴィヤ・スレーシュさん



フォーラム後、パネリスト、支援者の皆様、日印研究ラボメンバー



All the student volunteers on the stage



日印科学・技術・イノベーション STIフォーラム2024

# INDIA - JAPAN SCIENCE TECHNOLOGY INNOVATION FORUM

An international conference that aims to bring together policymakers, researchers, industry leaders, and academicians from India and Japan to foster dialogue and partnership for inclusive growth and sustainable development.

日印両国の政策立案者、研究者、産業界リーダー、研究者が集い、包括的な成長と持続可能な開発に向けた対話をもってパートナーシップの促進を目指す国際会議です。

**FREE ENTRY BILINGUAL**  
参加無料  
日英同時通訳あり

インド・日本STIフォーラム2024の中核を担う学生たち：レポーターや円滑な運営のためのファシリテーターなど、さまざまな役割でSTIフォーラムをサポートしました。

**イベントパートナー**  
日本側：  
日印協会（JIA）  
インド側：  
インド日本ビジネス協議会（IJBC）プネ

**企業パートナー**  
MIXI様の迅速かつ寛大なご支援のおかげで、このカンファレンスはバイリンガルかつ持続可能な形で開催することができました。

**企業サポーター**  
インド系で日本に拠点を置くTechMahindra社とFidel Softech社は、親切かつ迅速なサポートを提供してくださりました。

**新たにコラボの機会が到来!!**  
マヒンドラ大学はIJLとコラボレーションの可能性について話し合いを開始。

<p><b>OPENING SESSION</b> 9:30 - 11:00</p> <p>Welcome Remarks Kohei Itoh, President, Keio University</p> <p>Opening Remarks Yasutoshi Nishimura Chair, Japan-India Parliamentary Friendship League</p> <p>H.E. Mr. Sibi George Ambassador of India to Japan, Embassy of India in Japan</p> <p>Kyoto Address Haruhiko Kuroda, Ex-Governor, Bank of Japan</p>	<p>歡迎のご挨拶 開会の辞</p> <p>伊藤公平 慶應義塾大学校長 西村 康稔 日印友好議員連盟会長</p> <p>シビ・ジョージ閣下 在日インド大使館駐日インド大使</p> <p>基調講演 黒田東彦 元日本銀行総裁</p>	<p><b>オープニングセッション</b> 9:30~11:00</p>
<p><b>SESSION 1 GEOPOLITICAL RELEVANCE</b> 11:15 - 12:45</p> <p>Co-chairs Yuka Ando, Senior Researcher, Keio University IJL Jaldeep Sarkar, Professor, Mizuno Center, IIMB</p> <p>Key presenter Akitaka Saiki, President, The Japan India Association</p>	<p>座長 安藤優希 慶應義塾大学日印研究所上席所員 ジャディープ・サルカール インド経営大学ベンガルール校 みずほセンター教授</p> <p>発表者 齋木昭隆 公益財団法人 日印協会会長</p>	<p><b>セッション1 地勢学的関連性</b> 11:15~12:45</p>
<p><b>SESSION 2 SOCIAL CHALLENGES</b> 14:00 - 15:30</p> <p>Co-chairs Rajib Shaw, Professor, Keio University Anuja Gurtoo, Professor, IISc</p> <p>Key Presenter Nirmal Jain, Founder, India International School in Japan</p>	<p>座長 ショウ ラジブ 慶應義塾大学教授 アンジュラ・グルトウ インド経営大学ベンガルール校 教授</p> <p>発表者 ニルマル・ジェイン インドアイインターナショナルスクール創設者</p>	<p><b>セッション2 社会的課題</b> 14:00~15:30</p>
<p><b>SESSION 3 INNOVATION LEADING TO ACTION</b> 15:45 - 17:15</p> <p>Co-chairs Yasuo Takagami, Senior Researcher, Keio University IJL Siddhant Deshmukh, President, IJBC</p> <p>Key Presenter Sanjeev Sinha, President, IIT Alumni Association of Japan</p>	<p>座長 高橋行博 慶應義塾大学日印研究所上席所員 シッターゲルタ・デシュムク インド・ジャパン・ビジネス・カレッジ代表 サンジーブ・シンハ インド工科大学同窓会日本代表</p>	<p><b>セッション3 行動につながるイノベーション</b> 15:45~17:15</p>
<p><b>CLOSING SESSION</b> 17:15 - 17:45</p> <p>Chair Rajib Shaw, Professor, Keio University</p> <p>Session Reports</p>	<p>座長 ショウ ラジブ 慶應義塾大学教授</p> <p>セッションレポート</p>	<p><b>閉会セッション</b> 17:15~17:45</p>

## GUEST SPEAKERS

- Yasutoshi Nishimura**  
Chair, Japan-India Parliamentary Friendship League
- 西村 康稔**  
日印友好議員連盟会長
- Haruhiko Kuroda**  
Ex-Governor, Bank of Japan
- 黒田 東彦**  
元日本銀行総裁
- H.E. Mr. Sibi George**  
Ambassador of India to Japan, Embassy of India in Japan
- シビ・ジョージ閣下**  
駐日インド大使  
在日インド大使館
- Akitaka Saiki**  
President, Japan India Association
- 齋木 昭隆**  
日印協会 理事長
- Kohei Itoh**  
President, Keio University
- 伊藤 公平**  
慶應義塾大学塾長

December 06, 2024 FRIDAY 2024年12月6日金曜日  
Venue opens at 9:00 AM 午前9時開場  
Conference Hours: 9:30-18:00 開催時間：9時30分～18時

Venue: Keio University Mita Campus North Building Hall  
会場: 慶應義塾大学三田キャンパス北館ホール



Corporate Partner:



More info: <https://indiajapanlab.org/stiforum2024/>

要事前登録 REGISTER NOW



## 東インド

災害リスクコミュニケーションのためのジャーナリスト研修ワークショップを開催

インド東部、西ベンガル州のシャンティニケタンとダーズリンで、ジャーナリスト向けの研修が実施されました。印日研究所によるこのような研修は3年連続となります。

コルカタのセント・ザビエルズ・カレッジとMOUを締結しました。



Keio University



India Japan Laboratory

People to People Exchange in India



## 西インド

ムンバイ公立学校でのXR教育

生徒たちはXR技術の基礎を学び、ARとVRの違いを体験した後、創造性を活かしてVRスクリーンで将来のエネルギー状況を視覚化しました。高根佐知子兼任研究員は、ショウ ラジブ教授と共にワークショップを実施しました。

ムンバイ・スタンダード・コンソーシアム

本学大学院政策・メディア研究科の小林宏人教授および細谷博美教授と協力し、本学修士課程在籍中のセイラ・マリー・チェリアンさんは、労働者の住宅環境の最低基準を確保することをモットーに共同研究を行っています。

インド工科大学デリー校農村技術推進グループ (RuTAG) と連携  
マハラシュトラ州では、防災と気候変動対策のためのセンサーを開発中です。

インダス大学とのMOU締結 (2025年3月)

両大学代表者の訪問を経て、2025年3月31日に学部間および学生間の学術交流に関するMOUが締結されました。



IJLは、慶応義塾大学S.A.L.メンバーによるハリヤナ州のO.P. ジングル大学およびグジャラート州のNGO訪問を支援

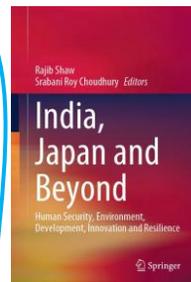
慶応義塾大学に本部を置く団体S.A.L.の学生5名のインド訪問の一部をコーディネート支援。S.A.L.メンバーは、「Send Out (国際問題を伝える)」「Aid (助けを求める人を助ける)」「Learn (世界の現実を学ぶ)」をモットーに、インドでの研修旅行を実施。



## 北インド

インド工科大学デリー校との連携：災害時の搜索ロボットとして「スネークロボット」を開発中。

慶応義塾大学博士課程在籍中の加藤奈保美氏、ラニット・チャタルジー博士、ショウ ラジブ教授は、インド工科大学デリー校の農村技術アクショングループ (RuTAG) との連携について討議。



## 南インド



2024年のワヤナンド土砂災害によって被災した地域を合同調査  
(2025年1月12日)



インド経営大学コーギーコーデ校にてデーバシーシュ・チャテルジーダイレクター  
とインド工科大学ボンベイ校のシャシャンクさん（博士課程学生）



NITカリカット校：ダイレクターのプラサード・クリシュナ教授  
と調査統括のフィローズ教授とダス教授（IIMK）とともに

### インド国ケララ州ワヤナンド土砂災害 (2024年)共同研究

インド経営大学コーギーコーデ校の学生たちが日印研究ラボが企画した日本体験プログラムに2023年に参加後、ケララ州での共同研究を計画・実施。

**ナショナル・インスティテュート・オブ・テクノロジーカリカット校 (NIT-C):**モハンマド・フィローズ教授、クリシュナダス・ナイールさん（修士学生）

**インド経営大学コーギーコーデ校 (IIMK):**アヌパム・ダス教授、サルマン・ファリスさん、サンジェイ・クリシュナンさん（両者とも修士学生）

**慶應義塾大学日印研究ラボ:**ショウラジブ教授、川根友上席所員、セイラ・メリー・チェリアンさん（修士学生）

Keio University



SAKURA  
SCIENCE

Exchange Program in Science



IIT BOMBAY

**JST さくらサイエンスプログラムに2024年に採択される：**慶應義塾大学日印研究ラボは、「持続可能性とレジリエンス：日本のSociety 5.0から学ぶ (Sustainability and Resilience-Learning from Society 5.0 of Japan)」をテーマにした共同研究のため、インドからの学生受け入れ先に選定されました。インド工科大学グワハティ校のジェビン・スルタナ・アーメドさん、インド工科大学ハイデラバード校のニディ・プラタープさん、そしてシャシャンク・アンシュ・クマールさんが3ヶ月間、慶應義塾大学に招へいされます。IJLは、2025年6月19日に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで開催される合同会議「防災、気候変動、持続可能な開発におけるイノベーション：レジリエントな未来への道 (Innovations in Disaster Risk Reduction, Climate Change, and Sustainable Development: Pathways for a Resilient Future)」に、スティーブ・ミトラ教授（インド工科大学グワハティ校）、シヴァ・ジー教授（インド工科大学ハイデラバード校）、パルメシュワール・ウドマレ教授（インド工科大学ボンベイ校）を迎え入れます。慶應義塾大学からは、ショウ教授とIJL主任研究員の川根上席所員がプロジェクトの事業提案、研究協力計画を担当、実行には博士・修士学生と協働します。